

壁面を埋める巨大書庫



サッカー日本代表をワールドカップ今大会も力を入れて応援しておりました。善戦し敗退した直後は私も抜け殻状態になりましたが、ありがとう！という気持ちでいっぱいです。さて先日、東京都文京区にある東洋文庫ミュージアムへ行ってきました。歴史で習った「東方見聞録」も見ることが出来ます。モリソン書庫と呼ばれる壁三方を埋める巨大書庫が有名とのことで、実際に目にとすると圧巻でした。（延本）

政府の成長戦略に労働時間法制の運用見直しが盛り込まれる見通しです

6月2日、政府の日本成長戦略会議の下に設置された労働市場改革分科会における労働時間法制等をめぐる議論の取りまとめが公表されました。

◆なぜ見直し？

分科会の第3回目にて、全国商工会連合会より、人手不足や時間外労働の上限規制への対応に苦慮しているとの声とともに、『収入をもっと増やしたい』『技能を修得したい』など健康確保と労使合意を大前提とし、**労働者本人の希望を踏まえた労働時間管理も可能とする制度**や、変形労働時間制などが十分に活用できていないことを踏まえ、「届け出などの要件を柔軟化し、多様な地域、業種・業態の企業や労働者が効率的に業務や労働をできるような、柔軟な労働時間管理の運用」が要望されていました。具体的な内容やいつから柔軟化が図られるのかなど、夏以降の情報に注目です。

【参考】労働市場改革分科会 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_69660.html

経団連発「若年社員の活躍推進における5つの課題と対応策」とは

経団連は5月19日、企業による若年社員の育成や支援等の取組みに関する、5つの課題と対応策をまとめた（以下、「報告書」という）。

◆若手社員の活躍推進にあたっての5つの課題

近年顕在化し、若年社員のキャリア不安や早期離職を引き起こしている課題を、①**リアリティ・ショックの発生**、②**成長機会の減少**、③**キャリアパスの不透明さ**、④**コミュニケーションの質的变化**、⑤**育成・マネジメントの行き詰まり**、の5つに整理しています。

◆5つの課題への対応策

これら5つの課題への対応策として、①**「日本型 RJP」(注)とオンボーディング施策**、②**人材育成施策の再構築**、

③**主体的なキャリア形成への支援**、④**タテ・ヨコ・ナナメによるコミュニケーションの活性化**、⑤**上司・管理職への支援・サポート**を挙げ、企業事例を交えて解説しています。

(注)RJP(Realistic Job Preview)は、仕事内容や組織の魅力だけでなく**課題や負の側面も含めありのままの情報**を提供して、**納得して応募した人を選考**する採用手法。

若年社員の活躍推進に“課題を感じている”企業は9割超に上ります(経団連調べ)。若年社員に限らず、組織全体が活性化する取組みを検討しましょう。

【参考】報告書・若年社員の活躍推進における5つの課題と対応策

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2026/029.html>

2026 年に変わる iDeCo の改正ポイント

個人型確定拠出年金「iDeCo」は長期的な資産形成を行うことを目的とした私的年金ですが、ルールが変わることも多いので、直近の改正をまとめます。

◆退職所得控除に関する「5年ルール」が「10 年ルール」に(2026 年1月1日より施行)

改正前は、先に iDeCo の給付金を一時金で受け取り、5年以上経過してから会社の退職一時金を受け取ると、掛金拠出期間と勤続期間で重複する期間の退職所得控除を、それぞれに使うことができました。改正後はこの「5 年」が「10 年」になり、受取りの間隔を 10 年以上空けない限り、重複期間の退職所得控除は1回しか使えないように調整されます。なお、先に会社の退職一時金を受け取り、後で iDeCo の一時金を受け取る場合には、退職所得控除を二重に使うには 20 年以上の間隔を空ける必要があります。

◆加入可能年齢が「70 歳未満」に拡大(2026 年 12 月1日より施行予定)

iDeCo に加入できる年齢は原則 20 歳以上 65 歳未満でしたが、**改正後は、70 歳になるまで掛金の拠出が可能**になります。ただし、iDeCo は公的年金の上乗せであるため、老齢基礎年金などの公的年金を受け取るようになると、掛金の拠出はできなくなります。

◆掛金の上限の引上げ(2026 年 12 月1日より施行予定)

会社員・公務員の拠出限度額は月額2万円(企業年金がある場合は合計 5.5 万円)または 2.3 万円でしたが、**改正後は 6.2 万円(企業年金がある場合は合計 6.2 万円)に引き上げられます**。自営業者・フリーランス等の拠出限度額は、国民年金基金と合算で月額 6.8 万円でしたが、7.5 万円に引き上げられます。

【参考】令和7年度税制改正の大綱

https://www.mof.go.jp/tax_policy/tax_reform/outline/fy2025/07taikou_01.htm

『ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか?』ダニエル・カーネマン (著)』

今月は少し趣向の異なる本を紹介します。ノーベル経済学賞を受賞した人の行動経済学の本です。人間の脳は意思決定をする際に、すぐに結論を出すファストなシステム1と合理的な考えをするスローなシステム2があり、この直感的なシステム1がすぐエラーを起こす、という人間の本质が書かれています。人間は楽をしたがるから努力が必要なシステム2よりも楽な方のシステム1を多用します。人間は理性的でもありますが、感情の生き物でもあります。あとで考えてみると、あの時の選択が間違っていた、と思うときは誰しもあるかと思います。その時はシステム1が暴走してしまっている時のようです。人間の性質がそのようになっているのでなかなか全て防ぐことは難しいでしょうが、こういった人や脳の性質を理解しておくことは役に立ちそうです。

